

教育学部からの情報発信

長崎大学教育学部附属小学校	楠木良浩 (<i>kusuki@net.nagasaki-u.ac.jp</i>)
同 附属中学校	江口 武 (<i>t-eguchi@net.nagasaki-u.ac.jp</i>)
同	森 淳 (<i>atushi@net.nagasaki-u.ac.jp</i>)
同 附属養護学校	上田文啓 (<i>bunkei@net.nagasaki-u.ac.jp</i>)
同 技術教育講座	藤木 卓 (<i>t-fujiki@net.nagasaki-u.ac.jp</i>)

1. 教育学部ホームページの概要

長崎大学教育学部として情報発信を開始したのは1997年1月である。直接的なきっかけは、学内 LAN の ATM 化と前後して WWW サーバに使えるワークステーションの運用権が学部に移ったことである。ちょうどホームページ開設の気運が高まりを見せていた時期でもあり、大きな問題もなくオープンすることができた。

現在のところ、学部のページと附属小学校、附属中学校、附属養護学校のページがオープンしている。まだ、完成されたページとは言えない部分もあるが、開設準備から現時点までの運用の範囲内における取り組みや課題等について、組織毎に紹介をさせていただくことにする。

2. 教育学部での情報発信への取り組み

2.1 教育学部でのネットワーク運営・管理体制

学部内における基幹的なネットワーク及びホームページの運営や管理は、「LAN 運営委員会」という組織により行われている。ネットワークの運営・管理に関して専用の委員会組織を構成した背景には、専門家集団がないという学部の事情によるものが大きかったように思う。情報コンセンツの整備をはじめ様々な事柄について、委員会の構成員が学びながら処していったわけである。それが、結果的にネットワークやホームページ開設を学部全体の課題として考えることにつながったものと思われる。

情報発信の原則は、発信者（あるいは発信組織）が自らの責任において自らの手で行うことである。

2.2 情報発信に伴う諸課題

発信する情報としては、①教育学部そのものの概要や沿革、学部長挨拶等に関する事務的な情報公開の部分、②学部・大学院、附属学校、附属センター等の紹介に関する組織からの情報公開の部分、及び③教育学部構成員が個人として情報発信する部分の3つに分けられている。①の事務的な情報発信については、事務官の関与が欠かせない。しかし、短期間での人事移動が予測される事務職員がどこまで関わるかは、難しい問題である。②の学部内組織からの情報発信は、まだ一部の組織からしか行われていない。発信したくてもそのための技術がなかったり、技術を持つ人はいても情報の更新や管理に時間が割けないというのが実状である。このように厳しい条件の中、附属学校3校と附属教育実践研究指導センターが情報発信を行っているのは頭が下がる。③の学部内構成員による個人としての情報発信は、組織を離れた個人レベルでの研究紹介や研究成果の公開に役立っている。現在のところ、福田正弘氏による社会科教育関連情報の発信、近藤寛氏による地学に関連する情報発信、中原豊氏による中原中也に関する情報発信が行われている。個人で発信可能な形態ではあるが、人的・時間的な問題から発信者がなかなか増えないのが課題である。

(藤木 卓)



図1 教育学部のホームページ

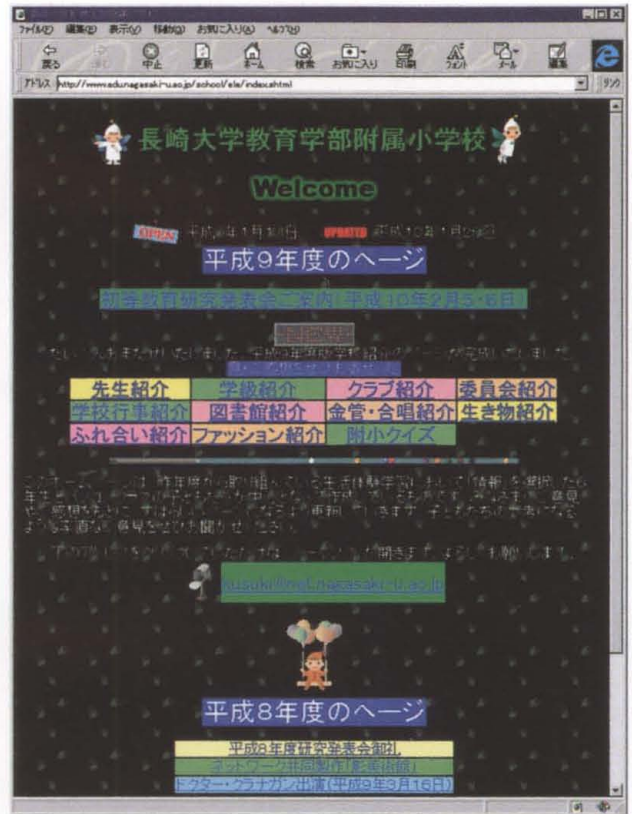


図2 附属小学校のホームページ

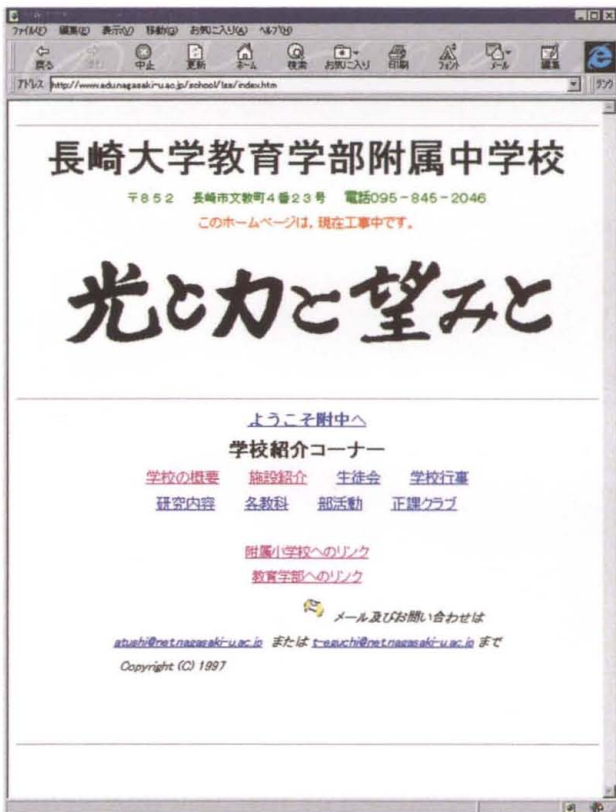


図3 附属中学校のホームページ

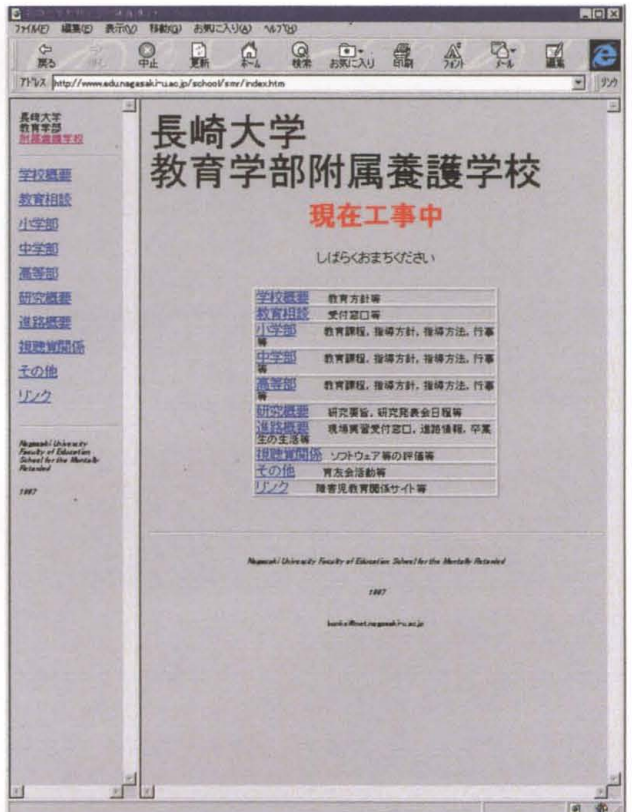


図4 附属養護学校のホームページ

3. 附属小学校での情報発信への取り組み

3. 1 ホームページ開設までの経緯

附属小学校にコンピューター室が完成し、児童用20台、教師用2台のパソコンが導入されたのが1996年の4月である。ちょうどその年から、本校では「生活体験学習」をスタートさせた。「生活体験学習」とは、「創造的思考力」「自己形成心」「社会性」の3つの資質や能力を総合的に拓く学習である。つまり、教科では補えない「生きてはたらく力」を体験的に学習させようというものである。各学年、年間40時間を使い、国際、環境、福祉、情報の4つを学習の窓口とし、土曜日の1・2校時に取り組んでいる。

6年生では、この4つの窓口を選択性にし、自分の希望する活動を1年間続けることにした。そこで、情報を選択した6年生37名で「学校の楽しい様子を全国の人に知ってもらおう」というテーマのもとホームページ作成を開始した。

本校では、まだサーバーを立ち上げていないので、教育学部のサーバーにファイルを置いていただき、1997年1月より公開している。なお、1997年からは、6年生に加え、パソコンクラブの子どもたち（4年生～6年生）も、ホームページ作成に取り組んでいる。

3. 2 ホームページ管理体制

ホームページの管理にあたっては、情報教育係2名と6年担任の情報担当1名の計3名で行っている。まだサーバーを立ち上げていないので、ホームページの管理自体は簡単なのであるが、パソコンを操作できる人材の不足を感じている。そこで、パソコン研修会を開いたり、個人的に相談に乗ったりしながら人材育成に努めているところである。

3. 3 成果と諸問題

子どもたちがこの学習で学んだ成果は次の通りである。

①パソコンの操作技能がとても上達した。まだパソコンに触れてからまもないが、特に絵を描く技能は大人の発想や技能を遥かに越えている。また、文章の入力も、最初はキーの配列にとまどってなかなか作業が進まなかったが、今ではスラスラと打てる子が増えた。

②子どもたちが、情報を集めて表現する喜び、情報を発信する楽しさを感じている。学校紹介のホームページを作るということは、自分の学校を見つめ直すことである。取材をする中で、まだよく知らなかったことに気づいたり、取材したことをどのように表現すれば、全く知らない人にも伝えることができるかを工夫したりすることができた。

次に、問題点である。

①情報量及び相手意識の問題である。子どもたちはレイアウトの段階では、絵や写真を大きくして派手なページを作りたいと考えるが、それでは、情報量が大きくなりすぎて、見る側にとっては、非常に困るということになってしまう。また、ホームページは、見る人が不特定多数であるため、明確な相手意識を持たせることが難しい。

②作成に時間がかかる。子どもたちが情報を収集し、記述するため、完成するまでに時間がかかり、公開もどうしても1月頃にずれこんでしまう。

③個人情報の公開の問題である。ホームページを公開することで、子どもが犯罪に巻き込まれてはたいへんである。そこで、子どものアップの写真は載せない、名字は載せず名前だけにするなど一応の基準を設けて作成している。個人情報をどの程度まで公開してよいのかについては、これからも考えていきたい。

(楠木 良浩)

4. 附属中学校での情報発信への取組み

4. 1 ホームページ開設に当たって

1997年1月、教育学部のホームページが開設され、その直後から、附属学校園の1つとして本校も早急に情報発信の体制作りを進めなければならないという声が立ち上がった。そこでまず、そのためのプロジェクトチームを組むことから取りかかり、「ホームページを作ろう会」と称して、7人がそのメンバーとなった。しかし、コンピュータの知識はあっても、当時、ホームページ制作の知識を持っている者は1人もおらず、そのための情報収集と研修を重ねることを確認して夏休みが過ぎていった。

そういった中、メンバーの1人が、民間のWWWサーバから発信する個人のホームページ制作を手掛けたことを契機に、一気に開設への気運が高まり、「工事中」の文字を残しながらも、ようやく12月に開設の運びとなった。

4. 2 ホームページの内容構成

現在、本校のホームページには、学校の概要、施設紹介、生徒会、学校行事、研究内容、各教科、部活動、正課クラブといったコーナーを設けている。しかし、上述したように、そのほとんどがまだ制作中であり、ホームページと呼ぶにはほど遠いものばかりである。内容の充実が急務とされることである。

4. 3 ホームページの管理体制

さて、ホームページは1度制作すればそれで終わりというものではないことは周知のとおりである。常に新たな情報を発信していくことが使命とされる。そのためには、管理体制を確立しておくことが大切である。開設間もない現在に至っては、先のメンバーの1部の者だけで作業を進めており、この状態では負担が大きく、長続きしないことは明白である。そこで、本校では、新年度から情報担当を校務分掌の中に位置づけることが検討されている。そして、その担当者を中心にメンバ

ーを再編成し、例えば、各教科のコーナーはまさしく当該教科で内容を構成し、制作及び更新作業を進めていくようにしたいと考える。もちろん、縦横の共通理解を図りながら行うことは言うまでもない。さらに、年次的にメンバーを入れ替え、担当者の異動にも十分備えていきたい。

4. 4 課題と今後の展望

内容構成については、独善的にならないよう、多方面の方々から意見を拝聴しながら制作を進めていきたいと考える。先だって、附属小の先生から貴重な御意見を電子メールでいただいた。内容は、画像の枚数やそれにかかる容量に絡む通信速度に関わるもので、まさに受信者の立場としてのものであった。情報を発信することだけにとらわれ、一般の電話回線利用による受信者への配慮に欠けたことへの御指摘はたいへん感謝に絶えない。今後の課題とさせていただきたい。

また、今後は、生徒個人や育友会のコーナーなども設け、生徒や保護者にとっても、楽しく役に立つものにしていきたいと考えている。そのためには、本校教官と生徒、保護者の三者の協力体制をどのように作っていくかが大きな課題である。

さらに、具体的な課題として、掲示板機能を載せたいと考えている。そのきっかけとなったのは、開設直後に送られてきた卒業生からの電子メールであった。以前から、卒業生からのホームページ開設の要望が口伝えで届いてはいたが、開設と同時にその反応があったことについては驚きとともに大きな喜びであった。こうしたインタラクティブなやり取りがホームページの発展に、ひいては学校の活動の発展につながると思う。制作に至る課題は山積しているが、研修を積むことで克服し、できるだけ早急に実現したいと考えている。

今、新たなホームページ制作への夢を抱いているところである。

(江口 武 , 森 淳)

5. 附属養護学校の情報発信への取り組み

5.1 ホームページ開設までの経緯と現状

附属養護学校においては、1996年3月末までに環境が整備された。1996年4月からコンピュータの利用が始まったが、現状は教材としての利用が主でインターネットを利用しての積極的な発信はまだこれからの課題である。

1996年4月～1997年3月の1年間、小、中、高の各学部の教官5名でコンピュータプロジェクトを立ち上げた。プロジェクトにおいては先行研究を元に、知的な障害のある子どもたちのコンピュータ利用の可能性を提言としてまとめた。このプロジェクトの提言から知的障害養護学校におけるコンピュータ利用について一定の方向性を得ることができたと考える。この提言の中に情報発信に関することも含まれていた。プロジェクトのホームページについての提言では、先行する養護学校のホームページを参考に本校で発信する必要のある内容を検討したものであった。

1997年4月当初にプロジェクトの提言を受けて管理部においてホームページの作成に取り組んだ。現在の本校のホームページの構成はプロジェクトの提言を骨子としている。各ページの具体的内容は、できていないため、現在公開に至っていない。そのため現在公開中のホームページは表題のみが表示されている状態である。

5.2 ホームページの管理体制

1996年4月から校務分掌の中の管理部がコンピュータを管理し1997年4月からホームページの管理も行うようになり現在に至っている。管理部の構成メンバーは小・中・高の各学部から1名ずつの3名で構成されている。3名ともHTMLを知らないので、ホームページをワープロ感覚で作成するアプリケーションソフトを利用している。WWWサーバーへのデータの転送は1名が行っている。

5.3 情報発信にともなう課題

本校における情報発信は前述のように、ま

だ未熟な状態である。本校が積極的な情報発信をしていくためには、現状では次の三つの課題がある。

まず一つは、本校教職員の情報発信に対する認識を育てることである。多くの職員は、ワープロは使うがコンピュータは使っていないのが現状である。そのためインターネット上での情報に接する機会が少なく、情報発信の必要性を認識するに至っていないと考えられる。情報発信に対する職員の認識を変化させるためには、先進校の実践や実践例をコンピュータ上で見たりする機会を持つことが必要であろう。情報発信が学校の情報公開としての当然の実践であると実感できれば、自ずと職員それぞれが手持ちの情報を吟味し情報発信をするようになると考える。

二つめは、各ページの具体的内容を検討し決定し公開するまでの手順や手続きが曖昧なことである。どこがどのページを担当し、原案を作成し、どのように検討して、どのような手続きで実際に公開していくのか、組織的な手順や係を明確にする必要がある。具体的には各ページの具体的内容を校務分掌の各係や各学部で検討後、原案を管理部がホームページに作成していくような方向が望ましいであろう。

三点目は、ホームページの係が3名ともコンピュータやインターネットに関する基礎的な技術的知識を持たなかった点である。この点に関しては、係の自己研修が必要である。また、学内外の人的資源を活用する具体的な方法を考えることも必要と思われる。

5.4 情報発信に関する今後の展望

先進校においては情報発信をきっかけに、他校とのメールを使った交流や共同作業（コラボレーション）等が実践されている。

本校においては、まず、各ページの内容を作ることが必要である。具体的には、各分掌の係や各学部ごとにそれぞれの責任においてそれぞれのページの原案を検討し管理部でページとして試作することが必要である。

(上田文啓)